

NARO Research Prize Special I

渋皮が容易に剥皮出来るニホングリ「ぼろたん」

クリ「ぼろたん」育成グループ

齋藤寿広¹⁾、壽 和夫²⁾、澤村 豊³⁾、寺井理治²⁾、正田守幸²⁾、阿部和幸¹⁾、
佐藤義彦¹⁾、鈴木勝征²⁾、高田教臣¹⁾、佐藤明彦¹⁾、平林利郎²⁾

(¹果樹研究所、²元果樹研究所、³農研機構本部)

研究の目的・背景等

ニホングリは一般に大果で豊産性であるが、チュウゴクグリと異なり渋皮の剥皮が困難であるため、クリ果実の消費・利用上の大きな障害となっていた。そこで、渋皮が容易に剥ける、大果で良食味のニホングリ品種の育成を図った。

研究の概要

「ぼろたん」は、軽く加熱するだけで渋皮が容易に剥ける画期的なニホングリ品種である。収穫期は関東では9月上・中旬で、早生品種である。果実重は30g程度と大きい。甘味が多く、肉質はほくほくとしていて、食味良好である。収量性は早生としては平均的で、主要品種の「丹沢」、「国見」と同程度である。クリ果実の新規需要開拓も期待できる品種であり、現在急速に普及面積を伸ばしている。



ぼろたんの渋皮剥皮性

左から：チュウゴクグリ、ぼろたん(ニホングリ)、筑波(ニホングリ)
果肉に達する傷を入れて、700Wの電子レンジで2分加熱した果実

